

【報道関係各位】

PRESS RELEASE

2019 年 3 月 4 日

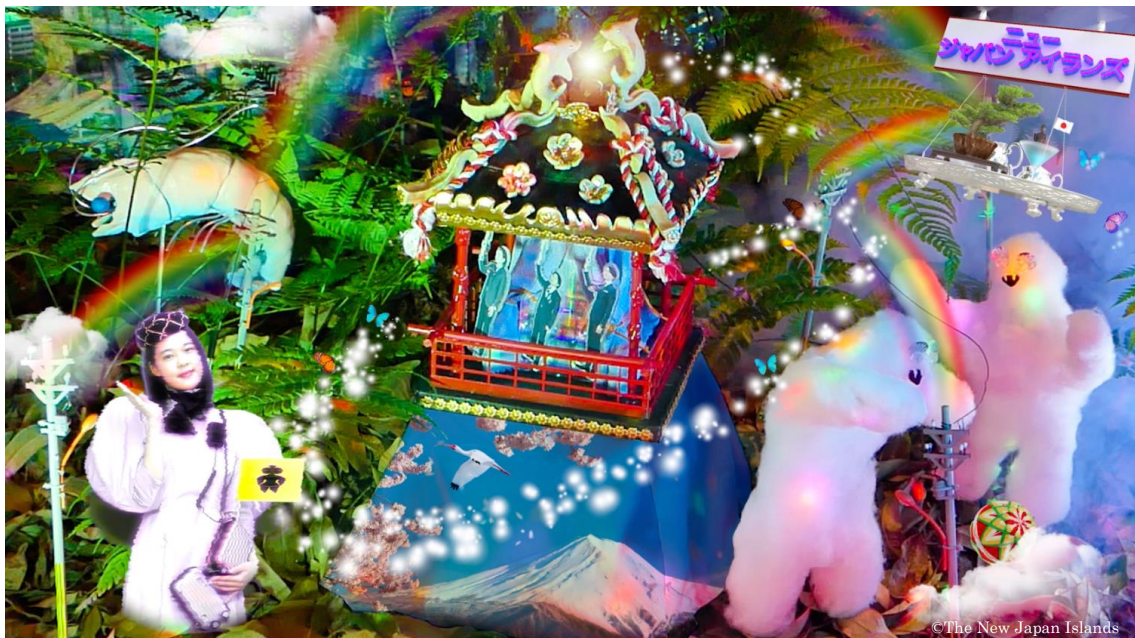
The New Japan Islands 実行委員会

**「The New Japan Islands」は
活動の第 1 弾として SXSW2019 会場に日本館を設営。
日本館の統括ディレクターには落合陽一氏を起用。**

The New Japan Islands は、日本の経産省、企業、アーティストから学術関係者や文化人までが一体となって、未来ビジョンと未来の風景を模索し、発信するプロジェクトです。日本独自の文化や世界観をもとに、新たな原風景を創出していきます。

活動の第 1 弾として、米国テキサス州オースティン市で今年 3 月 8 日から開催される SXSW2019 において日本館を設営し海外に向けた独自視点によるビジョン発信を行います。

この度、当日本館の統括ディレクターに落合陽一氏を起用し、特別協賛としてソフトバンク株式会社の参加が決定しましたのでご案内申し上げます。



(The New Japan Islands SXSW2019 日本館イメージ)

■SXSW とは

SXSW は毎年 3 月に、アメリカ合衆国テキサス州オースティン市で行なわれる、音楽祭・映画祭・インタラクティブフェスティバルなどを組み合わせた世界的なクリエイティブフェスティバルで、新しいビジネスの登竜門として位置づけられています。

■The New Japan Islands 関係者 （※2019 年 3 月 1 日現在）

○主催：

The New Japan Islands 実行委員会

○統括ディレクター：

落合 陽一 氏



メディアアーティスト。1987 年生まれ。

東京大学大学院学際情報学府博士課程修了（学際情報学府初の早期修了）、博士（学際情報学）。2015 年 World Technology Award、2016 年 Prix Ars Electronica、EU より STARTS Prize 受賞。Laval Virtual Award を 2017 年まで 4 年連続 5 回受賞など、国内外で受賞多数。直近の個展として「質量への憧憬(東京・品川、2019)」など。近著として「日本進化論(SB クリエイティブ)」、「デジタルネイチャー(PLANETS)」、200 部限定の初写真集「質量への憧憬 (amana)」。

○特別協賛：

ソフトバンク株式会社

○メディアパートナー：

FNN.jp、news zero、テレビ東京アメリカ ニューヨーク支局、

ASCII STARTUP、ギズモード・ジャパン、Business Insider、DIGIDAY 日本版

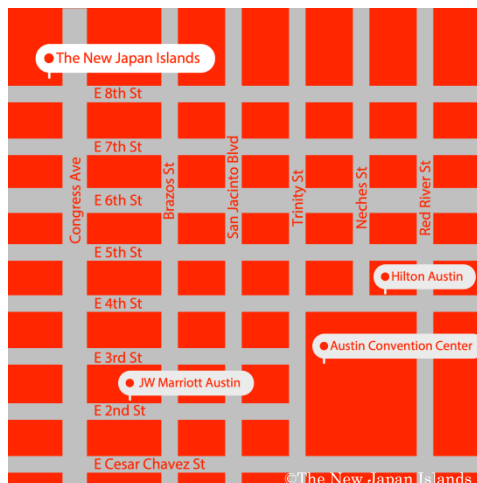
■The New Japan Islands（SXSW2019 日本館）について

(開催概要)

- ・ 期間：2019 年 3 月 9 日～11 日（米国 CST 中部時間）
- ・ 時間：12:00～22:00（米国 CST 中部時間）
- ・ 場所：800 Congress, Austin, TX



800Congress HP より



(SXSW 日本館外観) ※2019 年 3 月 1 日現在



(The New Japan Islands SXSW2019 日本館ファサードイメージ)



(The New Japan Islands SXSW2019 日本館エントランスイメージ)



(The New Japan Islands SXSW2019 日本館エントランスイメージ)

(SXSW 日本館内観) ※2019 年 3 月 1 日現在



(The New Japan Islands SXSW2019 日本館ステージイメージ)



(The New Japan Islands SXSW2019 日本館レイアウトイメージ)

関係者、日本館内プログラム情報は、随時公式 Web サイトにて更新を行います。

URL: <http://thenewjapanislands.com/>

【本プロジェクトに関するお問い合わせ先】

The New Japan Islands 実行委員会 事務局

広報担当：北村、大野

Email : info@thenewjapanislands.com

※イベント期間中は、時差でお返事が遅れる場合がございます。ご了承ください。

※画像利用の際には©The New Japan Islands をご使用ください。

以 上

(資料)

■The New Japan Islands

コンセプト

「デジタル発酵する風景／Digitally Fermenting Landscape」

いま、私たちを取り巻く社会は刻々と変化を遂げている。

非中央集権的なエコシステムの理想郷だったインターネットは、フィルターバブルやデータビジネスの利権集中など、新たな社会課題を引き起こしている。

その一方で、テクノロジーインフラが根付いた土壌にこそ、新たに育まれるエコシステムもある。食やデジタル文化、サブカルチャーなど、日本という島々で生まれた文化の種々は、あらゆる事象が複雑に関わり合いながら、新たな種を生み出し、人智をも拡張して、また共生していく。インターネットに常時接続されたデバイスや人の生み出すミームは、我々の社会で独自進化し、自然とテクノロジーが融合し、工業社会の次の風景を作り出しつつある。

その変容する日本文化の生態系は、目に見えない無数の微生物たちのはたらきによって発酵が進むように、互いの個を主張せず、公／私の境界があいまいなまま“発酵”を続ける、包摂的なエコシステムとも言えるだろう。カオティックに発酵していく景色をポジティブに受け止め、ポップカルチャーをも内包しながらにして、排他的でない未来ビジョンを提示する。それが本展示のテーマである。

ミッション

蒸気機関の発明から始まった産業革命は、IoTやAIによって第4次産業革命へと拡大を進めています。しかし、物質的な豊かさを無条件に是認してきたその在り方は環境破壊を引き起こし、人類の居場所である地球を危機に迫っています。

また、大規模化や効率化の結果である独占や寡占は、産まれながらに人類に備わっている多様性を消滅させ、画一的で人間性が見えないモノクロな世界に変えていこうとしています。

そんな時代に打ち出す「0次産業革命」とは、近代の資本主義や成長志向の限界を突破するコンセプトキーワードです。従来の中央集権的・大量生産的な社会状況を見直し、人類を含む自然環境の安定、そして個人や組織が自律的に活動しうる社会への移行を目指します。その鍵となるのは、東洋思想における自然観や調和の価値観。たとえば日本は元来、日本庭園にみられるように職人のもつ技と芸術の結節点を生活の一部に取り込んできました。日本古来の建築物もまた、木彫りや陶器など経年劣化を織り込んだ上で、自然と調和するような設計が施されています。

生命体としての人間本来の在り方を再確認し、未来を構築すること、そんな「懐かしさを感じる未来」を日本から提案・発信していきます。それは、産業とカルチャーをゆるやかにつなぐメッセージでもあります。